

2013年 岩手県消費者大会 を開催!

2013年10月29日(火)、盛岡の中心部で「岩手県消費者大会」を開催し、450人の参加で会場がいっぱいになりました。午前中に開催された分科会では、特にJA女性部といわて生協が担当したTPPの分科会「農業だけじゃない! TPPで変わってしまう私たちの暮らし」が盛況でした。今年、分科会を午前中にしたため、どの分科会も参加者が多く熱い話し合いになり「原発・放射能汚染から子どもを守るために」「消費税増税はこの国の社会保障・暮らしをどう変えてしまうか」「格差社会の中で広がる、子ども・若者の貧困問題を考える」「平和な未来を子どもたちに引き継ごう」「消費者被害の現状と対策～賢い消費者をめざして」も参加者が多く、何度も椅子を補充しました。

* 基調講演 **「アベノミクスと社会構造の変化～男女ともに希望をもって働ける社会へ」** 和光大学教授 竹信三恵子さん

基調講演は「私たちが今どんな社会に住んでいるか良く分かる話だった」「息子が非正規の労働者。長時間、低賃金、過労で大丈夫かと毎日心配だ。若者が希望を持てる社会にしなければならぬと痛切に思った」「アベノミクス、その言葉に騙されていると思った。地方では暮らしづらくなる未来しか見えない」「アベノミクス、TPP、憲法、原発、女性や若者の貧困問題、それぞれ違う社会問題として捉

えていたが、根底でつながっていることが良く分かる話だった」等々の感想が寄せられ、社会構

今後は経済の行きづ労働・同一賃金をすすめ、仕組みを作るべきとの



造への疑問が解決できたと好評だった。まりを解消したEU諸国に習って、同一女性も男性も人間らしく働けるような提案に共感が広がりました。

東日本大震災で間一髪だった!女川原発の見学会



福島第一原発事故から2年余、今も福島の人々を苦しめ続ける原発、岩手県でさえも食品の出荷停止が今も続いている。原発がある限り事故の心配、放射能汚染、行き場のない高濃度放射能を含むごみの処理等心配がつきない。岩手県に最も近い宮城県の「女川原発」も、2年後「レベル2」の状態だったと発表されるなど、深刻な状況だった。そのことを「3・11その時女川原発は重大事故に『紙一重』」としてまとめた、原発の危険から住民の生命と財産を守る会の事務局長で、女川町議(共産党)の高野博さんに案内と説明をお願いし「女川原発見学会」を、41人の参加で実施した。2011年3月11日、女川原発を13mの津波が襲い、5系統の外部電源のうち、奇跡的に1系統残って大事故を免れた女川原発だが、1号機で火災が発生、2号機地下3階建屋に海水が浸水するなど予断を許さない状態だった。20数年運動を積み上げた高野さんは模型を前に、その仕組みを分かりやすく説明され、大事故に紙一重の状況をみんなで納得した。改めて、**原発をゼロにするために、今後もみんなで声をあげ行動しよう!**と誓った1日になった。